（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和７年３月 17 日

県立秦野総合高等学校長（全日制）

令和６年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 17 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月７日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○単位制総合学科の利点を生かしたカリキュラム・マネジメントの推進に向けて学校全体で取り組む。 ○生徒の主体的な学びと確かな学力の定着に向けた、「系列」に応じた系統性のある学習の推進。	①全年次が新教育課程を実施するうえで、生じる問題点を把握し、適切に対処する。 ②新教育課程において、生徒が進路希望に応じて適切な科目選択をおこなうことで、主体的に学習に取り組むことを目指す。	①各年次、各教科との連携を密にし、問題点を早期に発見し適切に対処する。 ②履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料を適切に活用するとともに、キャリア支援グループと連携して、進路実現のための履修例や、３年間の科目選択、履修順序の例など更なる充実を目指す。	①各年次、各教科と連携を図り、問題点の発見、対処がおこなえたか。 ②履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料を適切に活用できたか。進路実現のための履修例や、３年間の科目選択、履修順序の例などを充実させたか。	①全年次が新教育課程となり、成績処理、卒業へ向けての単位修得などに関する問題を早期に発見し、適切に対処することができた。 ②履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料を適切に活用できた。	①今後も各年次、各教科との連携を密にし、問題点の早期発見につとめたい。 ②各年次、キャリア支援グループと連携し、個々の生徒が進路実現むけて、適切な科目選択がおこなえるようにつとめたい。	総合学科は教科科目が充実しており、生徒の興味関心に応じた授業選択ができていることは評価できる。それが授業評価アンケートの結果に反映されていると感じる。	①成績処理、単位修得について適切に対処することができた。引き続き誤りのない成績処理を行いたい。 ②生徒が進路希望に応じて主体的に科目を選択ができるよう履修指導することができた。引き続き生徒の主体的な学びを支援していく。	①教科や年次の会議や点検作業を確実に行い、適切な成績処理に努める。 ②年次やキャリア支援グループとの連携、丁寧な面談を心掛け、履修指導や進路支援を行う。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	○部活動のより一層の活性化を図り、魅力特色ある学校づくりを推進する。 ○SC、SSW、教育相談ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、外部機関との密接な連携を図り、支援を必要とする生徒一人ひとりへの支援体制の充実と強化を図る。	①部活動加入率65%を目標にして部活の活性化を図る。特に文化部の加入率向上に努める。 ②月に１回、定期的にコーディネーター会議を開き、戦略会議やケース会議を通して多様化する生徒一人ひとりのニーズに応えられるような合理的配慮を目指した支援をおこなう。	①部活動の活動紹介や大会日程、試合結果などの情報をＳＮＳで積極的に公開して、生徒の関心を促し、入部率の向上を図る。 ②各年次の教育相談担当者が支援の必要な生徒情報を共有し、早期発見・早期対応に努める。また、教育相談について研修する場を設け、職員のスキルアップを図る。	①部活動加入率が 65%以上になったか、文化部の入部率が特に伸びたか。 ②定期的にコーディネーター会議を開き、戦略会議やケース会議を通して課題のある生徒に支援ができたか。また、教育相談について研修会を開くことができたか。	①部活動加入率は 58%と昨年から１ポイント減少してしまった。運動部の加入率が減少したが、文化部の加入率は 8 ポイント増加した。 ②月に一度コーディネーター会議を開催し、生徒の情報共有や生徒支援に努めた。また外部機関と連携を図ることができた。	①運動部 SNS の活用や中学生に対しての体験部活等で引き続き積極的なアピールを行う。年度途中入部を推奨し、年間を通じて部員を募集していく。 ②支援が必要な生徒の課題解決に向けて、外部機関との連携を一層深めていく。	多くの部活動が中学校と連携した活動を行ったことは評価できる。引き続き工夫し部活動加入率を向上させたい。不登校等、様々な課題を抱える生徒の支援に向け、かながわ子どもサポートドックを活かしたスクリーニングやプッシュ型面談の充実を図って欲しい。	①部活動は本校の魅力特色にもなっていることから、引き続き加入率の向上に努める。 ②サポートドックのプッシュ型面談を充実させることができた。今後は外部機関との連携を強化し生徒支援を行っていく必要がある。	①各部活動と調整し、学校説明会においてより多くの部活動を体験できるようにする。 ②教育相談会議を充実させ、外部機関との連携を一層深めていく。
3	進路指導・支援	○多様な進路希望の実現に向け、進路希望分野別で継続的な支援を計画的に実施する。 ○外部機関と連携を行い、進路希望分野別のガイダンスや希望分野別の講習会を企画し、全ての生徒にとって適切な情報提供を実現する。	①全年次の新カリキュラムの学習計画に沿って、１年次の「産業社会と人間」２・３年次の「総合的な探究の時間」を効果的に行う。 ②進路別ガイダンス、進路別学習会を効果的に実施し、家庭に向けた情報提供を含めて適切でタイムリーな支援を行う。	①１年次は、自己理解と職業理解を計画的に支援。２年次は、進学・就職に向けた準備計画の確定と社会を取り巻く事象に対する探究学習を支援。３年次は進路希望実現に向けた取り組みを個別に支援する。 ②ガイダンスや学習会で、クロームブック等を活用し効果的な情報提供と情報発信に積極的に取り組む。	①各取り組みでの振り返りシートの内容が充実した内容になっているか。実施後のアンケート結果において理解が深まったと回答しているか。 ②生徒一人ひとりの活動が年次職員で共有できる資料提供ができたか。生徒一人ひとりの取組状況を保護者へ適切に情報提供できたか。	①各年次とも計画どおりに支援することができた。特に３年次では各自の進路希望実現に向けて、キャリア支援グループや３年次職員を中心として学校全体で支援することができた。 ②ガイダンスや学習会ではクロームブック等の ICT 機器を積極的に利活用し情報発信や情報提供をすることができた。	①職員の経験年数などで支援の質に差が出ないよう、組織的な取組や職員研修などを充実していく必要がある。 ②クロームブック等の ICT 機器の効果的な利活用について研究を深める必要がある。また、Wi-Fi の充実等の更なる ICT 環境の整備が望まれる。	総合学科ならではの学びを充実させ、生徒の多様な進路を支援して欲しい。また、就職に関しては事前の職場見学など生徒の離職率が上がらない取組をより一層充実させてほしい。	①総合学科の特色である多様な学びの選択肢が、生徒一人ひとりの主体的な進路選択にどう繋がっているかをより明確にし、進路指導に活かしていく必要がある。 ②外部機関と連携し、進路希望分野別のガイダンスや講習会を企画し、ICT 機器の活用しながら全ての生徒にとって適切な情報提供が実現された。	①３年間のキャリア形成を見据えた両科目の計画的な企画・実施を継続し、生徒の自己理解、職業理解、社会理解を深める探究的な学びを推進する。 ②最新の進路情報を生徒および保護者へ適切かつタイムリーに情報配信する。家庭と連携した進路支援を推進する。

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 17 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月７日実施）	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○「南が丘地区豊かな心を育む協議会」等との連携を通して幼稚園、小中学校・地域自治会等との相互交流をさらに充実する。 ○ボランティア活動のより一層の充実とボランティア精神の涵養を図る。	①地域の幼稚園・小・中学校や自治会と連携を深め、教育活動の充実を図る。 ②ボランティア活動、あいさつ運動を中心とした地域との連携を深め、生徒が積極的にボランティア活動に参加できるようにする。	①南が丘地区にある幼稚園・小・中学校との連携をさらに推進し、地域の自治会等の行事に積極的に参加するなど、教育活動の充実に向けた連携を深める ②積極的にボランティア活動について情報発信を行い、生徒のボランティア活動への参加を促す。	①幼稚園・小・中学校との連携や地域の行事などに参加することができたか。 ②ボランティア活動に参加した生徒が増加したか。	①地域ぐるみあいさつ運動や地域行事に積極的に参加するとともに、公開講座を実施した。小学校や近隣保育園の子どもたちとスポーツ交流を実施した。 ②昨年度とほぼ同等のボランティア参加状況であった。	①引き続き地域連携を深めていくと同時に、積極的に広報し、多くの子どもたちと交流していく。 ②情報発信を積極的に行い、新規のボランティア等も見つけていく。	今年度は天候の関係で地域貢献活動は実施できなかった。次年度の活動に期待したい。あいさつ運動は意義のある活動であるため引き続き実施して欲しい。昨年度課題になっていた保育園、小中学校、高齢者等、授業や部活動において充実した交流ができたことは評価できる。	①地域のイベント、保育園、小中学生との交流など、地域交流活動が実施され学校の活動・取組等を浸透させていくために、地域回覧板への発信も行った。 ②ボランティア参加状況はほぼ同等であり、より一層の参加促進が求められている。	①地域との連携を充実させ地域の資源や教育力を活用した教育活動を展開する。また、学校ホームページや広報誌などを活用し、学校の活動や取り組みを積極的に地域へ発信する機会を増やす。 ②ボランティア部を中心に生徒への情報提供を充実させる。多くの生徒がボランティア活動に参加できるようにする。
5	学校管理 学校運営	○様々な教育環境の変化に柔軟に対応し、積極的に課題に取り組める持続可能な組織づくりを行う。 ○全職員が不祥事防止に対する意識を高く持ち行動する。	①全生徒・職員が安心・安全に教育活動の課題に取り組める組織づくりを推進する。 ②全職員で不祥事防止に取り組み風通しの良い職場づくりに努める。	①学校生活が安心して快適に過ごせる環境をつくるとともに、緻密な防災計画を図り、有事の際に迅速な行動ができるように備える。 ②お互いに挨拶や声がけをすることで注意喚起を行い事前の事故防止を図る。	①防災計画を図り、実行ができたか。 ②声がけや事前の注意喚起を行い不祥事防止に努め風通しの良い職場づくりを図ることができたか。	①地震を想定した防災訓練・シェクアウトを通して意識向上が図られた。防災訓練は雨天で体育館での実施となったが帰着地別集合など充実した内容であった。ＤＩＧ研修においては喫食体験も実施した。 ②定例で行われる不祥事防止研修や講座を実施し、事故防止を図った。	①地震だけでなく、火事を想定した訓練も計画していく必要がある。 ②職員同士の声がけや事前の注意喚起を行い、風通しの良い職場づくりをする。	生徒の安全安心に向けて引き続き実践的な防災訓練をお願いしたい。不祥事防止に向けてよりよい職場環境に努めて欲しい。	①全生徒・職員が安心して安全に教育活動の課題に取り組めるよう、地震を想定した訓練などを実施できた。地震だけでなく、火事を想定した訓練も計画していく必要がある。 ②不祥事防止研修や講座も定例で行われたものの、研修成果を生かすことができなかった。	①地震だけでなく、火災やその他の災害を想定した避難訓練や対応策の検討を行う。必要に応じて防災マニュアルの見直しを行い、生徒・教職員への防災意識の啓発活動を継続的に実施する。 ②風通しが良く働きやすい職場を目指し、職員同士の声かけや注意喚起を行う。